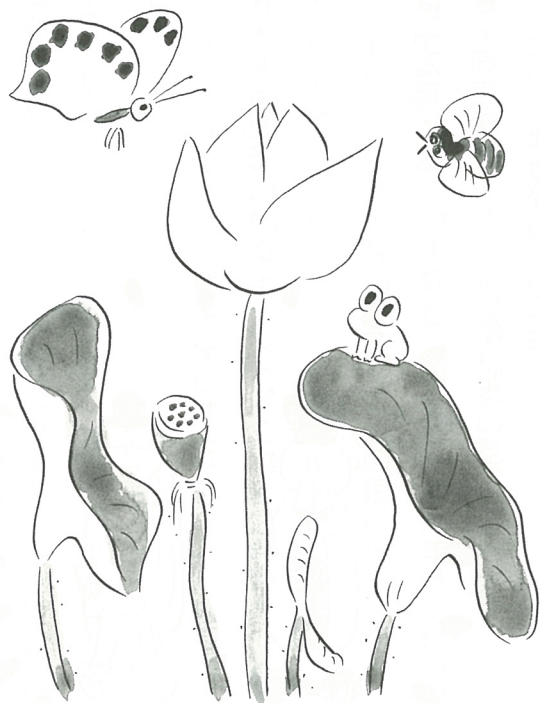


今が一番しあわせ

お念仏になった先生

ひじ 美恵
み え



目次

仏教と漫画に出会って	2
いのちを描く	7
みんな一緒にの教室	12
「歎異抄」をきいて師と仰ぐ	18
お念仏になった先生	26
今の私の夢—あとがきにかえて—	32

仏教と漫画に出会って



はじめて会った人に、

「仏教漫画家です」

と自己紹介するとたいてい、

「仏教と漫画って、何か関わりがある

んですか?」

と聞かれる。

漫画の最も古い言い方は「滑稽」と

いっ言葉だ。中国の歴史家・司馬遷の

「史記」にある『滑稽列伝』という部分がルーツだ。

ここに「滑稽とは、笑言をもって大道を説く」と記されている。



そこには滑稽者（道化者）たちが、それぞれの時代の王様に側近として仕えていた時の面白いうエピソードがいくつもある。

たとえば斉国の威王に仕えていた、淳于髡という滑稽者の話。

酒好きの威王は、毎夜美女たちと騒ぐのが大好き。国を治めて八年目、楚の国が攻めてきた。しかし、とても自力では戦えない。すぐに趙の国に援軍を頼むことにした。その使者に選ばれたのが淳于髡だ。

手土産は、黄金二十六キロと四頭立ての馬車十セット。これで急ぎ頼んでくるように命令された。すると、淳于髡は王様の前で大笑いする。笑って、笑って、とつとつ冠の紐が切れてしまった。そして、

「今（いま）来る前に、農夫が豊作を祈っているのに会いました。小さなお盆に豚の蹄一つとコップ一杯の酒で、『高田も稔り、下田も稔り、家がザクザクいっぱいに満ちますよつ』と。供えるものがケチくさいのに、望んでいるものがたいそう大きいのを思い出して、つい笑ってしまいました」



威王はすぐに黄金二百八十キロ、馬車は百セット、その上、当時の中国では大
変貴重とされていた「玉」を一揃えした。そこで淳于髡は堂々と趙の国をたずね、
ただちに精鋭十万の兵と兵車千台を提供された。そのニュースを聞いた楚の国は、
一夜にして退散した。

他にも、淳于髡のような滑稽者たちが、時には泣き、時には芝居を打ちながら、
王様に言いにくいことをやんわりと笑いに包んで、真理つまり、大道に目覚めさ
せていく様子が記されている。

滑稽者たちの相手は王様。もし怒りをかえば即座に職を失い、時には命まで失
う危険もある。

これを編纂した司馬遷という人は、李陵という將軍をかばったために、漢の武
帝の怒りをもって処罰された。「腐刑」つまり去勢されるといふ、当時の男性では
一番恥ずかしい刑罰。そんな身で、この「滑稽列伝」を編纂した。彼には、ユー
モアがどれほど大切か骨身にしみていたのではないだろうか。

淳于髡は、七五九年に中国から仏
教を伝えるに来日した鑑真和尚の先祖
でもある。困難の末に失明までしな
がらも、奈良の唐招提寺の礎を築
いた。およそ滑稽者のイメージとは
重ならないが、鑑真和尚はこの先祖
を敬慕していたといわれている。

人間に苦があるから仏教が生まれ
た。苦を根本的に救済するのが仏教
だ。その苦を緩和するのが笑い。そ
の笑いを表すものが漫画。

その上、仏教には「拈華微笑」と
いう究極のユーモアがある。お釈迦

